

ダイキン工業（6367）企業分析レポート

【直近5年の業績推移】

決算期	売上高（百万円）	営業益（百万円）	経常益（百万円）	EPS（円）	配当金（円）	寸評
2021.03	2,493,386	238,623	240,248	534		需要停滞
2022.03	3,109,106	316,350	327,496	743		回復鮮明
2023.03	3,981,578	377,032	366,245	880		高成長
2024.03	4,395,317	392,137	354,492	889		利益横ばい
2025.03	4,752,335	401,669	366,446	904		最高益更新

【財務・キャッシュフロー概要】

決算期	営業CF（百万円）	投資CF（百万円）	財務CF（百万円）	現金残高（百万円）	自己資本比率（%）
2023.03	158,896	-229,793	-113,088	548,242	51
2024.03	399,567	-227,188	-129,623	634,008	54
2025.03	514,450	-337,406	-153,468	658,105	54

【財務コメント】 営業CFは拡大基調で、投資CFは継続的なマイナスが続くが、現金残高は積み上がっている。自己資本比率は50%台で安定しており、成長投資と財務健全性の両立が確認できる。

【会社概要】

ダイキン工業は空調機器で世界トップクラスのシェアを持つ総合空調メーカーである。住宅用・業務用を軸に海外比率が高く、冷媒・化学など周辺領域も持つ。省エネ規制と快適性需要の拡大を追い風に成長している。

【歴史】

1924年創業。冷凍機メーカーとして発展し、戦後に空調分野を拡大した。海外展開を強化し、グローバルで生産・販売網を整備。近年は環境規制対応と高付加価値製品の拡販で収益性を高めている。

【立ち位置】

空調は脱炭素と省エネの中核領域であり、更新需要と新興国の普及余地が大きい。高性能・省エネ製品と販売網を武器に、機械セクターの中では景気循環に左右されにくい成長領域寄りの立ち位置にある。

【見解】

中長期的には、世界的な空調需要の増加と省エネ規制強化を追い風に、安定成長が期待できる企業である。一方で、為替変動や原材料・物流コストの上昇、設備投資負担が短期の利益変動要因となる点には注意が必要である。

【株価・市場情報】(2026年1月9日)

株価(終値・円)	PER(倍)	PBR(倍)	配当利回り(%)	信用倍率(倍)	時価総額(億円)
19,330					

【同業他社比較】

銘柄名	株価(円)	PER(倍)	PBR(倍)	時価総額(億円)	特徴
三菱重工	4267	62	5	140,000	重工最大手、防衛・宇宙に注力
コマツ	5187	14	1	48,300	建機最大手、ICT化に強み
クボタ	2371	18	1	27,000	農機・鋳鉄管最大手
IHI	3235	27	6	35,000	航空エンジン首位、重工多角
日立建機	5030	14	1	10,800	油圧ショベル強い、ICT化

【投資成功シナリオ】

省エネ規制の強化と新興国の普及拡大で販売数量が伸び、高付加価値製品の比率も上昇する。営業CFの増加で投資と還元の両立が進み、安定成長株として評価が定着し株価が上昇する展開。

【投資失敗シナリオ】

世界景気の減速で住宅・設備投資が鈍化し、需要が想定を下回る。為替の逆風と原材料高が重なり利益率が低下すると、成長期待が剥落し株価調整が長期化する展開。

【メモ】

2026.03予は增收増益見込み。注目は為替とコスト転嫁、地域別の需要動向。次に見る論点は営業利益率の改善余地と投資CFの水準。